

# 「こおりやまの米」通信

編集：郡山市  
JA福島さくら郡山地区本部（TEL. 921-0533）  
NOSAI福島郡山田村支所（TEL. 933-3307）  
県中農林事務所農業振興普及部（TEL. 935-1310）  
発行：郡山市農作物生産対策協議会  
（郡山市園芸畜産振興課 TEL.924-3761）



郡山市  
イメージキャラクター  
「かくとくん」

## Vol. 4 中干し・いもち防除

こおりやまの米通信

検索

\* 過去の記事は郡山市ホームページから見る事が出来ます。

### 1 いもち病対策

～置き苗の処分は終わりましたか？～

いもちに罹病しやすい時期になりました。

置き苗はすみやかに処分しましょう。



#### 【葉いもち予防】

予防防除は地区全体で取り組むと効果が高まります。移植時に箱粒剤を使用していない水田では、オリゼメート粒剤（初発の10日前～初発時、ただし収穫14日前まで）などをすぐに散布しましょう。

#### 【穂いもち予防】

移植時に箱粒剤を使用していない水田では、7月中～下旬にコラトップ粒剤5（出穂15～10日前）などを使用し、穂いもちを予防しましょう。

#### 【いもち病適期防除に

##### BLASTAM(ブラスタム)の活用を】

福島県病害虫防除所のホームページでは、葉いもちに感染しやすい日を判定するシステム「BLASTAM(ブラスタム)」を公開しています。感染後約1週間で病斑が確認できるので、ほ場を観察し、いもち病の適期防除に活用しましょう。

福島県 ブラスタム

検索



### 2 中干し・溝切り

～有効茎が確保されたら実施しましょう～

#### 【溝切りと中干しの効果】

①入排水が容易になります。

用水の少ない場所でも均一かつスムーズに入排水が可能となります。5m間隔で溝切した場合、溝切無しの水田に比べ倍以上の早さで排水が完了します。

②根張りをよくします。

酸素が土中に入り、根の活力を高め根腐れを抑制します。

③無効分げつを抑制します。

一時的にチッソ吸収が止まり、無効分げつを抑制します。

④登熟向上・増収効果が期待できます。

落水開始を遅くすることができ、登熟の向上が期待できます。

⑤コンバイン作業に適した田面の硬さを確保できます。

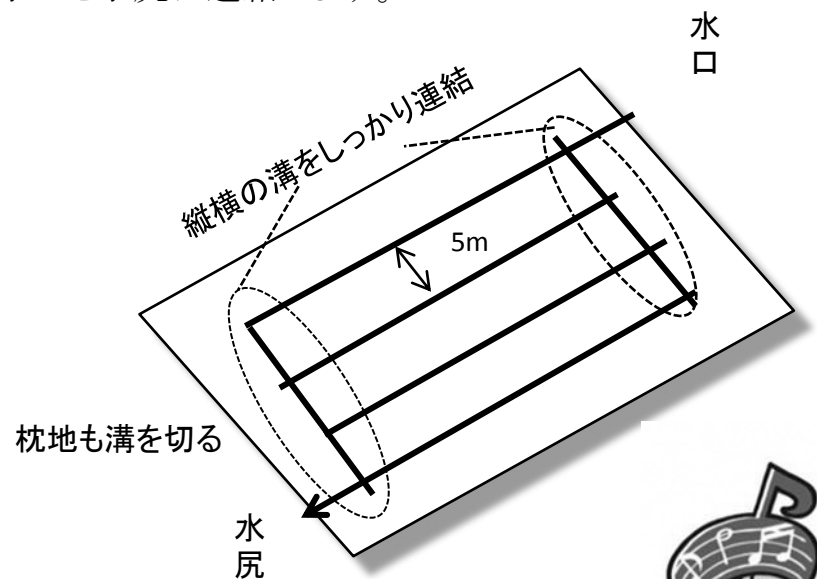
スムーズな排水が可能になり、落水により土壌が乾き、田面がコンバイン作業に適した固さになります。

#### 【溝切りのポイント】

①10cm以上の溝の深さを確保できるよう、溝切り作業の1～2日前に落水して表土を固めます。

②溝の間隔を狭くすると入排水がすみやかになり、その後の飽水管理がしやすくなります。

③ほ場の外周部(枕地)をぐるりと回って溝をつなげ、水口と水尻に連結します。



溝切りの一例



#### 熱中症にご注意！！

曇りや雨の日でも熱中症になる可能性があります。こまめな休憩と水分補給を意識的に行うよう心掛けてください。



### 3 水管理 ～中干し後の水管理～

中干し後に急に湛水状態を続けると、土中が酸素不足となり根腐れの原因となります。

中干し直後は土を湿らす程度の走り水とし、3～5日かけて徐々に間断かんがいや飽水管理へ移行しましょう。

ただし、出穂期には十分な量の水(花水)を確保しましょう。

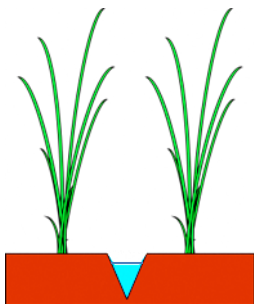
その後は、出穂後30～35日頃まで間断かんがい、または飽水管理を続けます。

#### ※間断かんがい

3～5日間隔で入水と排水を繰り返す。

#### ※飽水管理

溝や足跡に水たまりができる程度に管理する。



飽水管理

#### ～気温に応じた水管理～

【低温時】 出穂の15～7日前の低温時には、すみやかに深水管理とし、幼穂を保護しましょう。

【高温時】 出穂後の高温時には昼間深水または掛け流し、夜間落水し水温(地温)調整に努めましょう。

### 4 追肥(穂肥)

～出穂25日前の生育状況で判断しましょう～

#### 【追肥の判断】

幼穂形成期に追肥を行う一番の目的は、収数の確保のためです。しかし、この時期は稈長が伸び始める時期でもあるため、追肥量が多いと倒伏の原因となってしまいます。

品種と生育に応じた適切な時期に施用するよう細心の注意を払いましょう。

#### 出穂25日前の生育の目安

品種	草丈	葉色 (カラースケール)
コシヒカリ	65～70cm	3.0～3.5
ひとめぼれ	60～65cm	3.5～4.0
あきたこまち	55～60cm	3.5～4.0

ふくひびきについては、今年度から「多肥栽培」が産地交付金の飼料用米(多収品種)助成の要件に追加されましたので、10aあたり総窒素施肥量が地域の一般品種の慣行施肥より3kg以上増となるようにしましょう。

#### 【施用時期と窒素分量の目安】

- ・コシヒカリ:出穂18～15日前(1～2kg/10a)
- ・ひとめぼれ:出穂20日前(2kg/10a)
- ・あきたこまち、天のつぶ:出穂25日前(2kg/10a)

幼穂長による出穂までの日数の判定方法は下表のとおりです。出穂期は天候により前後しますので、幼穂長を確認しましょう。

※基肥一発肥料を使用した場合は原則として追肥は行いません。

#### 出穂までの日数の判定方法(コシヒカリ)

幼穂長	出穂前日数	備考
1mm	25日	幼穂形成始期
2mm	20日	
8～15mm	18日	止葉抽出
40～60mm	14日	
80mm	12日	減数分裂期

### 5 カメムシ類対策

～定期的な草刈りで全量1等米をめざしましょう！～

畦畔雑草の管理として、2～3回の草刈りで幼虫・成虫ともに大幅に密度が低下します。

ただし、出穂期前後はカメムシを水田内に追い込む場合があるので、草刈りは出穂10日前までとします。



刈り払い機の使用前には、刈刃のヒビや固定を確認しましょう！

#### 農薬危害防止運動実施中！

使用前にもう一度ラベルを確認！

- ・農薬は施錠して保管
- ・土壌くん煙剤は被覆資材を使用
- ・周辺住民に配慮した農薬の使用

